

# N8190-163/164 Fibre Channel コントローラ Starter Pack 適用における注意事項

N8190-163/164 のファームウェアバージョンが「12.8.528.12」より古い場合は、Starter Pack DVD からのファームウェアアップデート後の再起動ができずに停止することがあります。

「2-1-1/2-2-2/2-3-1 ファームウェアのアップデート」を実施する前に、本注意事項の【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して N8190-163/164 のファームウェアバージョンを確認してください。

N8190-163/164 のファームウェアバージョンが「12.8.528.12」より古かった場合は、一旦 N8190-163/164 を取り外して、「2-1-1/2-2-2/2-3-1. ファームウェアのアップデート」を実施後に再度 N8190-163/164 を実装してください。その後 OS セットアップ完了後に、改めて本注意事項の各 OS 用【適用手順】を参照して、N8190-163/164 のファームウェアを適用してください。

また、同一本体装置内に N8190-175/176 の Fibre Channel コントローラが実装されている場合は、N8190-163/164 のファームウェアアップデートが同時に出来ないことがあります。

該当する構成でご使用の場合は、「2-1-1/2-2-2/2-3-1. ファームウェアのアップデート」を実施後に本注意事項の【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアのバージョンを確認してください。

N8190-163/164 のファームウェアバージョンが全て「14.0.499.29」でなかった場合は、再度「2-1-1/2-2-2/2-3-1. ファームウェアのアップデート」を実施して、改めてファームウェアバージョンを確認してください。

## 【ファームウェアバージョン確認方法】

下記のいずれかの方法でファームウェアバージョンを確認することができます。

### <システムユーティリティ(System Utilities)での確認方法>

- 1) POST で F9 を押してシステムユーティリティ(System Utilities)を起動します。
- 2) システム構成(System Configuration)を選択します。
- 3) 対象の Fibre Channel コントローラを選択します。  
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。  
N8190-163/164: SN1200E
- 4) アダプター情報を表示する(Display Adapter Info)を選択します。
- 5) ファームウェアバージョン(Firmware version)を確認します。

### < iLO WEB インターフェースからの確認方法 >

- 1) マネージメント LAN 経由で接続し、iLO メニューを表示させ、「ファームウェア & OS ソフトウェア」を選択してください。
- 2) 「製品名」「ファームウェアバージョン」が表示されます。  
対象となる製品の製品名とファームウェアバージョンを確認してください。  
N 型番と「製品名」の対応は以下の通りです。  
N8190-163/164: SN1200E

## 【Windows Server 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) サーバに管理者権限でログインして Starter Pack S8.10-011.03 の/16g\_fc/e/win/に収録された exe ファイルを任意のフォルダにコピーします。
- (3) コピーした exe ファイルをダブルクリックします。
- (4) 「パッケージセットアップ」ウィンドウが起動するので、バージョンが「2023.03.01」となっていることを確認して「インストール」をクリックします。
- (5) メッセージが表示されますので再度「インストール」をクリックします。
- (6) インストールが実行されます。完了まで数分かかります。途中ウィンドウのタイトルバーに「セットアップ(応答なし)」と表示されることがありますが、そのままお待ちください。
- (7) インストールが完了したことを確認したら「閉じる」をクリックします。
- (8) システム再起動が要求されたら「はい」をクリックして再起動します。  
再起動が要求されない場合は手動で再起動します。  
※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。
- (9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認してください。
- (10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

## 【RHEL8 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) サーバに root ユーザでログインします。
- (3) 光ディスクドライブに Starter Pack S8.10-011.03 をセットします。
- (4) マウントポイントを作成します。作成済みの場合は、本操作は不要です。  
# mkdir /media/cdrom
- (5) Starter Pack S8.10-011.03 をマウントします。  
# mount -r -t iso9660 /dev/sr0 /media/cdrom
- (6) /16g\_fc/e/rhel ディレクトリへ移動します。  
# cd /media/cdrom/16g\_fc/e/rhel
- (7) 以下のコマンドを順番に実行します。  
# rpm -Uvh HPE-CNA-FC-Emulex-Enablement-Kit-14.0.499.28-1.rhel8.x86\_64.rpm  
# rpm -Uvh firmware-fc-emulex-2023.03.01-1.1.x86\_64.rpm  
# cd /usr/lib/x86\_64-linux-gnu/firmware-fc-emulex-2023.03.01-1.1  
# ./setup -f
- (8) OS を再起動します。  
# reboot
- (9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認してください。
- (10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

## 【RHEL9 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) サーバに root ユーザでログインします。
- (3) 光ディスクドライブに Starter Pack S8.10-011.03 をセットします。
- (4) マウントポイントを作成します。作成済みの場合は、本操作は不要です。  
# mkdir /media/cdrom
- (5) Starter Pack S8.10-011.03 をマウントします。  
# mount -r -t iso9660 /dev/sr0 /media/cdrom
- (6) /16g\_fc/e/rhel ディレクトリへ移動します。  
# cd /media/cdrom/16g\_fc/e/rhel
- (7) 以下のコマンドを順番に実行します。  
# rpm -Uvh firmware-fc-emulex-2023.03.01-1.1.x86\_64.rpm  
# cd /usr/lib/x86\_64-linux-gnu/firmware-fc-emulex-2023.03.01-1.1  
# ./setup -f
- (8) OS を再起動します。  
# reboot
- (9) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認してください。
- (10) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。

## 【ESXi7 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) Starter Pack S8.10-011.03 の/16g\_fc/e/esxi7/に収録された ZIP 圧縮ファイルを、VMware Host Client を起動する PC にコピーします。
- (3) VMware Host Client を起動します。管理者権限のあるユーザーで ESXi に接続し、ESXi をメンテナンスモードに切り替えます。  
※メンテナンスモードへの切り替えは、VMware Host Client で ESXi に接続し、[ナビゲータ]の中の[ホスト]を右クリックして、[メンテナンス モードへの切り替え]をクリックします。
- (4) [ナビゲータ] の中の [ストレージ] をクリックすると、データストアの一覧を表示します。ZIP 圧縮ファイルをアップロードするデータストアの上で右クリックし、[参照] をクリックします。
- (5) [アップロード]をクリックします。
- (6) 表示したアイテムのアップロード画面で ZIP 圧縮ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
- (7) アップロード/ダウンロード操作に関する警告ダイアログが表示された場合、[はい]をクリックします。
- (8) データストアブラウザにアップロードした ZIP 圧縮ファイルが表示されると、アップロードは完了です。
- (9) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択します。  
ダイレクトコンソールまたは SSH による ESXi Shell へのアクセスを有効にし、管理者権限のあるユーザーで ESXi Shell にログインします(ダイレクトコンソール画面で ESXi shell にログインをする場合は[Alt] + [F1] キーを押します)。
- (10) 以下のコマンドを実行し、ZIP 圧縮ファイルを解凍します。  
# unzip [Path]CP055838.zip  
※ [Path]は"/vmfs/volumes/datstore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを格納したディレクトリを絶対パスで記述します。

- (11) ZIP 圧縮ファイルを解凍して得られた CP055838\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、実行権限を付与します。
- ```
# chmod +x [Path]CP055838_VMw.zip
```
- ※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)
- (12) 実行権限を付与した CP055838\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントをインストールします。
- ```
# esxcli software vib install -d [Path]CP055838_VMw.zip
```
- ※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)
- (13) 以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントがインストールされたディレクトリに移動します。
- ```
# cd /opt/Smart_Component/<CP055838>
```
- (14) 以下のコマンドを実行し、ファームウェアを適用します。
- ```
# ./Execute_Component
```
- (15) reboot コマンドを実行し、サーバを再起動します。
- ※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。
- (16) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認します。
- (17) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。
- (18) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択し、ESXi Shell のアクセス設定を元に戻します。また VMware Host Client で ESXi に接続し、メンテナンスモードを解除します。

## 【ESXi8 用適用手順】

- (1) Trusted Platform Module(TPM)を搭載している場合、システムユーティリティから、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Advanced Security Options」-「Platform Certificate Support」を[Disabled]にして、「System Configuration」-「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」-「Server Security」-「Trusted Platform Module Options」-「Advanced Trusted Platform Module Options」-「TPM Visibility」を[Hidden]にします。  
設定を変更したら、サーバを再起動します。
- (2) Starter Pack S8.10-011.03 の/16g\_fc/e/esxi8/に収録された ZIP 圧縮ファイルを、VMware Host Client を起動する PC にコピーします。
- (3) VMware Host Client を起動します。管理者権限のあるユーザーで ESXi に接続し、ESXi をメンテナンスモードに切り替えます。  
※メンテナンスモードへの切り替えは、VMware Host Client で ESXi に接続し、[ナビゲータ]の中の[ホスト]を右クリックして、[メンテナンス モードへの切り替え]をクリックします。
- (4) [ナビゲータ] の中の [ストレージ] をクリックすると、データストアの一覧を表示します。ZIP 圧縮ファイルをアップロードするデータストアの上で右クリックし、[参照] をクリックします。
- (5) [アップロード]をクリックします。
- (6) 表示したアイテムのアップロード画面で ZIP 圧縮ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
- (7) アップロード/ダウンロード操作に関する警告ダイアログが表示された場合、[はい]をクリックします。
- (8) データストアブラウザにアップロードした ZIP 圧縮ファイルが表示されると、アップロードは完了です。
- (9) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択します。  
ダイレクトコンソールまたは SSH による ESXi Shell へのアクセスを有効にし、管理者権限のあるユーザーで ESXi Shell にログインします(ダイレクトコンソール画面で ESXi shell にログインをする場合は[Alt] + [F1] キーを押します)。
- (10) 以下のコマンドを実行し、ZIP 圧縮ファイルを解凍します。  
# unzip [Path]CP055839.zip  
※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを格納したディレクトリを絶対パスで記述します。

- (11) ZIP 圧縮ファイルを解凍して得られた CP055838\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、実行権限を付与します。
- ```
# chmod +x [Path]CP055839_VMw.zip
```
- ※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)
- (12) 実行権限を付与した CP055839\_VMw.zip ファイルに対して以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントをインストールします。
- ```
# esxcli software vib install -d [Path]CP055839_VMw.zip
```
- ※ [Path]は"/vmfs/volumes/datastore1/zip/"のように、ZIP 圧縮ファイルを解凍したディレクトリを絶対パスで記述します。(手順(10)の[Path]と同様です)
- (13) 以下のコマンドを実行し、スマートコンポーネントがインストールされたディレクトリに移動します。
- ```
# cd /opt/Smart_Component/<CP055839>
```
- (14) 以下のコマンドを実行し、ファームウェアを適用します。
- ```
# ./Execute_Component
```
- (15) reboot コマンドを実行し、サーバを再起動します。
- ※ 複数の対象となる型番の Fibre Channel コントローラをご使用の場合、上記手順を実行することで全ての対象となる型番の Fibre Channel コントローラに対してファームウェアが適用されます。
- (16) 【ファームウェアバージョン確認方法】を参照して、ファームウェアバージョン(Firmware version)が「14.0.499.29」となっていることを確認します。
- (17) 手順(1)で設定を変更している場合は、設定を元に戻してサーバを再起動します。
- (18) ダイレクトコンソールの画面で Troubleshooting Options を選択し、ESXi Shell のアクセス設定を元に戻します。また VMware Host Client で ESXi に接続し、メンテナンスモードを解除します。